

ISSN 0389-3731

奈良国立文化財研究所
埋蔵文化財センター

〒630 奈良市二条町2-9-1

☎ 0742 - 34 - 3931

1992. 9. 1

75

CAO NEWS

Centre for Archaeological Operations

全国文化財データベースについて

近年、コンピュータの発達と相俟って、文化財の分野でも情報機器を導入し行政や研究に役立てようという動きが全国各地にある。尤も、全国の文化財を対象としたデータベースとなると、その数の膨大さ、データ収集の困難さなどから、着手が躊躇されていた。

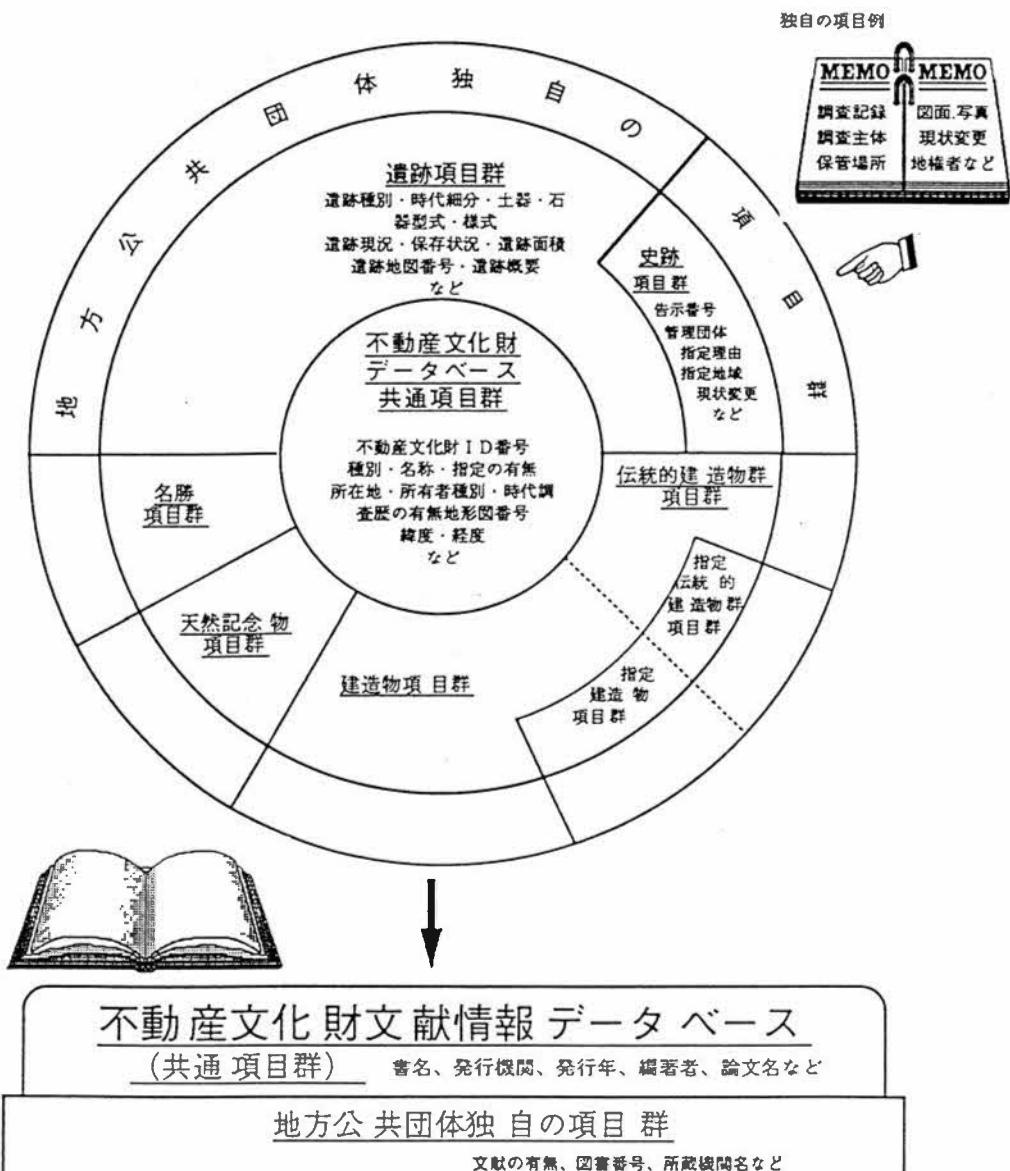
しかし、昨今のパーソナルコンピュータ、あるいはワークステーションの発達、普及度は目覚ましく、各自治体・個人が各自のデータベース作成に着手し、既に稼働している例も少なくないし、各地域のデータベースをおたがいに統合して相互利用したい、という声も大きい。

文化庁もようやく全国文化財データベース構築計画に着手した。最初の調査費が計上されたのが1987年度である。爾来、度重なる調査・討議を経て、「文化財情報システム概念設計書」が、1991年3月に刊行された。これによると、文化財を動産文化財と不動産文化財に分け、それぞれにセンターシステムをおき、各関連機関がローカルシステムとなってデータ入力を受け持つとともに、それぞれの部門のセンターからオンラインサービスを受けるとする。さらに、このシステムの完成を1994年におき、1995年にはサービスを開始する計画である。

不動産文化財のうち、遺跡部門では、奈文研が首領をとり、これに先行する形で検討を進めてきた。1990年2月には、全国の教育委員会に呼びかけ、関心のある方々100人程が奈文研に集り検討会を催した。さらに同年5月には、そのなかの20人で構成するワーキンググループの集会をもち、データベース構造の細部検討から、遺跡の項目選定、文字数まで活発かつ詳細な討議をおこなった。その結果がこの『埋蔵文化財ニュース』にとりまとめたものである。

この、データベースが全国の文化財保護行政・研究に資するところ大であることは疑いない。しかし、データベースが有効に活用されるか否かについては、一にそのデータベースが充実した内容をもっているか否かにかかっている。データベースのユーザの資格は、データを提供しデータベース構築の一端を担うことによって生ずる。全国の膨大な量の不動産文化財を、データベースに網羅できる見通しは、ここに負うところが大きい。文化庁では、市町村教育委員会に、管轄下の不動産文化財についてのデータシート作り、データ入力のための補助金を計画している。また、奈文研では、市販の各種DBソフトに遺跡データを入力するためのプログラムを作成した。各団体に配布し、有効に活用していただくなつむりである。この『埋文ニュース』は、その際の入力マニュアルも兼ねている。昨今の情報化社会のなかで、埋蔵文化財もこれに互し、きめの細かい保護行政・研究が進むよう、このデータベースの充実を願ってやまない。

不動産文化財データベースの構造



不動産文化財データベースの定義と構造（左ページ図の説明）

- ・不動産文化財とは、遺跡、伝統的建造物群を含む歴史的建造物、名勝、天然記念物など、およそ土地に結びついている文化財を総称するものである。これに対して彫刻、絵画、書、美術工芸品のように可動することのできる文化財は「動産文化財」とよんで区別し、この動産文化財と不動産文化財のデータの基礎的データを統合したデータベースを総称し、全国文化財データベースとする。
- ・各不動産文化財に共通する項目すなわち、不動産文化財1点ごとに付ける不動産文化財ID、名称、所在地、所在地の座標、史跡等指定の有無、調査歴、文献の有無、この不動産文化財を含む1/25,000地形図の番号など、すべての不動産文化財に共通して設定できる項目を「不動産文化財データベース共通項目群」とし（前ページ図の中心の円）、データベースの核として構造の中心におく。
- ・共通項目群の周囲には、不動産文化財の種別に応じた項目群すなわち、遺跡項目群、建造物項目群、名勝項目群、天然記念物項目群の4群をおき、それぞれの項目群が、データベースに盛り込む項目を選定する。この範囲を、全国不動産文化財データベースセンターシステムとして共用できる部分とする。
- ・国・都道府県・市区町村が指定する不動産文化財については、別に上記種別項目群のそれぞれの枠内に項目群（テーブル）を設定し、指定物件管理上の項目（指定告示記録、調査記録、管理団体、調査主体、現状変更記録、土地公有化記録、地権者リスト、などの文字情報に加えて、地番図、現況写真などの画像情報）を追加する。
- ・さらに、都道府県、市町村はその自治体独自のローカルシステムを構築し、センターシステムとリンクをはかりつつ、個々の不動産文化財についての独自の項目群を設定し、センターシステムにはなじまない、地権者、地番、買収計画、調査予定、調査費用など文化財管理上必要な項目を盛り込み、データベースの強化をはかる。
- ・各不動産文化財に関する文献については、文献データベースを別に構築し（前ページ下段）不動産文化財個々に付したID（Identity）で結合させる。文献データベースの項目（案）についても巻末に提示した。
- ・文献データベースにおいても、ローカルシステムが、受入年月日、排架、貸借台帳など図書管理上の項目を付加し、独自の項目群を設定する。

このデータベースは、全国の不動産文化財のデータ約40万件を対象とするもので、共通項目群および不動産文化財別項目群では、そのすべてを網羅することをたてまえとしていることから、個々の不動産文化財についての細部に亘るデータには及ばない。さらに、その不動産文化財についての学術的な意見の相違まで言及できない。したがって、地方公共団体独自の、あるいは研究者独自の項目群（ローカルシステム）をいかに充実させるかが、このデータベースが有効に活用されるか否かの、鍵を握っているといつても過言ではない。

I. 共通項目群

I - 1. 共通項目群内容表横軸の説明

1. 項目番号 それぞれの項目に与えた4桁の番号で、各項目を区別・代表する。

2. 文字数 各項目で記入できる最大の文字数。

3. バイト数 コンピュータで扱われているWORD(語)単位で、各項目の最大文字数通常英字・数字は1バイト、ひらがな・漢字等は2バイトを要する。

4. リピート 同一項目中複数のデータがあり、それが繰り返して出現することを認められる場合、この項目

をリピート可能項目とし、表中の数字は、出現する項目の出現限度数を定めたものである。リピートの制限を越える場合、以下は切り捨てとする。

5. データ長 各項目のデータの形式をあらわす

固定：記入データを一定の文字数とする。

可変：記入データを限度文字数の範囲内で不定とし、記入された文字数が実際のデータ長となる。

(仮に、この定められたデータ長を越える場合は、以下を切り捨てる)

6. 文字種 各項目に記入する文字の形式

半角：英字、数字など、表示文字の横幅が半分の文字(1バイト文字)

全角：漢字などを表示する場合の文字(2バイト文字)

コード：コード表内に記載されている番号

(注) J I S 第2水準までに含まれない漢字については、読み変え可能なものは読みえ、外字は極力使用しない。やむを得ない場合は当該文字を記号化し、読みえのコード表を添付する。

データ長等 共通項目		項目番号	文字数	バイト数	リピート	データ長	文字種
不動産文化財ID番号		1000	12	12		固定	半角
市町村不動産文化財ID番号		1010	6	6		固定	半角
(空欄)		1020					
名 称	漢 字	1030	25	50	3	可変	全角
	ひらかな	1035	50	100	3	可変	全角
所在地	市町村コード	1050	5	5	3	固定	半角・コード
	郡市区町村大字	1055	40	80	3	可変	全角
境界不動産文化財ID番号		1060	10	10	3	固定	半角
所有者種別		1100	1	1	3	固定	半角・コード
主な時代		1200	2	2	5	固定	半角・コード
指定区分		1300	2	2	3	固定	半角・コード
調査・発掘の有無		1400	1	1		固定	半角・コード
文献の有無		1500	1	1		固定	半角・コード
2万5千分の1地形図番号		1600	9	9	4	固定	半角
座標値	緯度	1601	6	6		固定	半角
	経度	1602	7	7		固定	半角

I-2 共通項目群の項目説明（4ページ表、縦軸の説明）

・不動産文化財 I D番号（1000）

『JIS』で定めた都道府県コード（2桁）と市区町村コード（3桁）の5桁と、市町村不動産文化財 I D番号（1010）の6桁を合わせた11桁の数字の末尾に不動産種別コード1桁を付した12桁の数字。JISコードは、自治省編「全国地方公共団体コード」と同じ。

・市町村不動産文化財 I D番号（1010）

市区町村ごとに各不動産文化財に付す6桁の通し番号。不動産文化財 I Dの下6桁と同じ。この番号は不動産種別（遺跡、建造物など）ごとに異なる必要はないが、混乱を避けるため末尾に不動産文化財種別コード（項目番号1020）を付ける。

・不動産文化財種別（1020）

遺跡、名勝、天然記念物、建造物、伝統的建造物群保存地区に付すコード。

不動産文化財種別コード表（7頁）参照。不動産文化財 I D末尾1桁と同じ。

・名称（1030・1035）

不動産文化財の名称と読み。漢字（2バイト文字）25文字までと、読みはひらがなで。

異称、通称などリピートは3。

・所在地（1050・1055）

不動産文化財の所在地のコードと漢字（2バイト文字）、読みはひらがななど。複数の自治体にまたがる場合、リピートは3まで。

・市町村コード（1050）

所在地の都道府県コード+市区町村コード（JIS）。

（不動産文化財 I Dの2位からの5桁と同一）

郡市区町村大字（1055）

不動産文化財の所在する郡市区町村大字名地番。大字のない地域では、町名および丁目まで。なお、調査当時と現在の町名が異なる場合（町名変更など）で起きる限り現在の町名を付けるようにする。

・境界不動産文化財 I D番号（1060）

ある不動産文化財が複数の自治体にまたがる場合、各自治体が独自に付ける不動産文化財 I D番号。不明の場合は空欄。1物件に異なる複数の I Dが付されることになるが、センターシステムで調整のうえ、統一をはかることとする。

・所有者種別（1100）

不動産文化財の所有者コード。リピートは3。所有者種別コード表（7頁）参照。

・主な時代（1200）

不動産文化財の主となる時代のコード。リピートは5。時代コード表（7頁）参照。

・指定区分（1300）

史跡、重要文化財などに指定されているものについての種別コード、リピートは3。指定区分コード表（7頁）参照

・調査・発掘の有無 (1400)

調査や発掘の有無コード。0をなし、1をありとする。建造物の調査、修理、遺跡の発掘調査などの時期、内容などについては、各不動産文化財の項目群の、調査概要等を参照する。さらに、調査期間、機関、担当者、調査費用、調査表・写真などの保管ケース等については、地方自治体独自の項目群を参照する。

・文献の有無 (1500)

当該不動産文化財に関する文献の有無コード。0がなし、1があり。その詳細な内容は不動産文化財文献情報データベースを参照する。

・2万5千分の1地形図番号（1600）

不動産文化財の所在地を含む国土地理院発行の2万5千分の1地形図の地図番号。複数の地形図にまたがる場合は、4とおりまで。

(例)

1:25,000 地形図 N1-53-15-5-4 地図番号
ふるいち (和歌山5号-4)



上記目図番号の“-”（ダッシュ）を除いた9桁。

この地形図は、縮尺2万5千分の1に統一したい。それ以外の縮尺の地形図を台帳に採用している自治体の場合は、できるだけ2万5千に統一していただきたい。

• 緯度 (1601)

不動産文化財所在地の中心座標の緯度。「° , ' , "」の記号を省いた6桁。

例) $36^{\circ} 50' 20'' \rightarrow 365020$

・経度 (1602)

不動産文化財所在地の中心座標の経度。

例) $137^{\circ} 49' 50'' \rightarrow 1374950$

この緯度・経度はあくまでも所在地の中心の1点の座標であり、面的な範囲ではない。当然、自治体では、データベースとして範囲を登録したいという要求があると思われる。その場合も自治体独自の項目群でカバーする。

異なる自治体にまたがって存在する不動産文化財については、各自治体が異なった座標を与えることになるが、これについてもセンターシステムに於いて調整することとする。

I-3 共通項目群コード表

所有者種別(1100) コード

不動産文化財種別(1020) コード

項目名	コード
遺跡	1
名勝	2
天然記念物	3
建造物	4
伝統的建造物群	5
その他	9

項目名	コード
国	1
県	2
市町村	3
寺院	4
神社	5
法人	6
個人	7
その他	9

主な時代(1200) コード

項目名	コード	
旧石器	10	
縄文	20	
弥生	30	
古墳	40	
古代	飛鳥白鳳	50
	奈良	51
	平安	52
	細分不明	59
中世	鎌倉	60
	南北朝	61
	室町	62
	戦国	63
近世	細分不明	69
	安土桃山	70
	江戸	71
	細分不明	79
明治	80	
不明	90	

指定区分(1300) コード

項目名	コード	
史跡	国指定特別	11
	国指定	12
	都道府県指定	13
	市町村指定	14
名勝	国指定特別	21
	国指定	22
	都道府県指定	23
	市町村指定	24
天然記念物	国指定特別	31
	国指定	32
	都道府県指定	33
	市町村指定	34
建造物	国宝	41
	重要文化財	42
	都道府県指定	43
	市町村指定	44
伝統的建造物群	国選定重要	51
	都道府県指定	52
	市町村指定	53
	その他	90

II 遺跡項目群とその定義

II-1 遺跡項目群の内容

項目名	項目番号	文字数	バイト数	リピート	データ長	文字種
時代・遺跡種別	2010	4	4	5	固定	半角・コード
立地	2020	1	1	3	固定	半角・コード
現況	2030	1	1	3	固定	半角・コード
保存状況	2040	1	1		固定	半角・コード
面積	2050	10	10		可変	半角
全国遺跡地図番号	2060	9	9		固定	半角
群集遺跡ID番号	2070	10	10		固定	半角
遺跡概要	主要な遺構	50	100		可変	全角
	主要な遺物	50	100		可変	全角
	主要な調査	100	200		可変	全角
	主要な開発	100	200		可変	全角
	その他	100	200		可変	全角

II-2 遺跡項目群の説明

・時代・遺跡種別（2010）

時代・遺跡種別コード。複数の時代・遺跡種別を持つ複合遺跡の場合は、5とおりまで。

時代遺跡種別コード表（10頁）、コード表の詳細説明は11頁参照。

（例）弥生時代の墓、古墳時代の集落の場合3013, 4001となる。

・立地（2020）

立地のコード。リピートは3。立地コード表（11頁）参照

・現況（2030）

遺跡の現況コード。リピートは3。現況コード表（11頁）参照

・保存状況（2040）

保存状況のコード。保存状況コードは、11ページのコード表のとおり、保存、不良、消滅、不明、その他の5とおりしか用意していない。データシート記入者の判断でいずれかに決めざるを得ない。保存状況コード表（11頁）参照

・面積（2050）

遺跡の面積の実数。1平方メートル単位とする。（概数の場合でも末尾の0は省略しない）

・全国遺跡地図番号（2060）

文化庁編『全国遺跡地図』の遺跡地図番号2桁と遺跡一連番号4桁を基本とする。

『遺跡地図』に記載のないものは空欄とする。また、各番号が桁数に満たない場合は右詰めとする。技番がある場合は、「-」（ハイフン）で連結し9桁までを遺跡地図番号とする。



福島 7
福島

国指定史跡名勝天然記念物

・群集遺跡 I D 番号（2070）

群集遺跡とは、古墳群、横穴群、窯跡群などを指し、群全体が遺跡名を持つものを云う。さらに、群集遺跡の中の主要な個々の遺構には、個々に不動産文化財 I D 番号を付す。

・遺跡概要

主要な遺構（2100）

この遺跡を代表する主要な遺構についての記載（50字以内）。

主要な遺物（2110）

この遺跡を代表する主要な遺構についての記載（50字以内）。

主要な発掘歴（2120）

主要な発掘歴の記載（100字以内）。

主要な開発歴（2130）

主要な開発歴の記載（100字以内）。

その他（2140）

主要な遺構、遺物、発掘歴、開発歴に属さない必要事項についての記載（100字以内）。

遺構概要については、すべての字句が検索の対象となるので、JIS2級までの文字にとどめ、外字・記号などは使用しないよう努めたい。

時代・遺跡種別（2010）コード

遺跡種別 時代	居住集落							生産関連					墓・祭祀						その他			
	集落	洞穴	貝塚	宮都	官衙	城館	交通	窯	田畠	製塩	製鉄	その他	墓	古墳	横穴	祭祀	経塚	社寺	集石	散布地	その他	
旧石器	1001	1002	1003				1007					1012	1013							1019	1020	1021
縄文	2001	2002	2003				2007			2010		2012	2013							2019	2020	2021
弥生	3001	3002	3003				3007		3009	3010		3012	3013	3014						3019	3020	3021
古墳	4001	4002	4003				4007	4008	4009	4010	4011	4012	4013	4014	4015	4016			4019	4020	4021	
古代	飛鳥白鳳	5001	5002	5003	5004	5005	5006	5007	5008	5009	5010	5011	5012	5013	5014	5015	5016	5017	5018	5019	5020	5021
	奈良	5101	5102	5103	5104	5105	5106	5107	5108	5109	5110	5111	5112	5113	5114	5115	5116	5117	5118	5119	5120	5121
	平安	5201	5202	5203	5204	5205	5206	5207	5208	5209	5210	5211	5212	5213			5216	5217	5218	5219	5220	5221
	細分不明	5901	5902	5903	5904	5905	5906	5907	5908	5905	5910	5911	5912	5913			5916	5917	5918	5919	5920	5921
中世	鎌倉	6001	6002	6003	6004	6005	6006	6007	6008	6009	6010	6011	6012	6013			6016	6017	6018	6019	6020	6021
	南北朝	6101	6102	6103	6104	6105	6106	6107	6108	6109	6110	6111	6112	6113			6116	6117	6118	6119	6120	6121
	室町	6201	6202	6203	6204	6205	6206	6207	6208	6209	6210	6211	6212	6213			6216	6217	6218	6219	6220	6221
	戦国	6301	6302	6303	6304	6305	6306	6307	6308	6309	6310	6311	6312	6313			6316	6317	6318	6319	6320	6321
近世	細分不明	6901	6902	6903	6904	6905	6906	6907	6908	6909	6910	6911	6912	6913			6916	6917	6918	6919	6920	6921
	安土桃山	7001	7002	7003	7004	7005	7006	7007	7008	7009	7010	7011	7012	7013			7016	7017	7018	7019	7020	7021
	江戸	7101	7102	7103	7104	7105	7106	7107	7108	7109	7110	7111	7112	7113			7116	7117	7118	7119	7120	7121
	細分不明	7901	7902	7903	7904	7905	7906	7907	7908	7909	7910	7911	7912	7913			7916	7917	7918	7919	7920	7921
明治		8001	8002	8003	8004	8005	8006	8007	8008	8009	8010	8011	8012	8013			8016	8017	8018	8019	8020	8021
	不明	9001	9002	9003	9004	9005	9006	9007	9008	9009	9010	9011	9012	9013	9014	9015	9016	9017	9018	9019	9020	9021

II-3 遺跡項目群コード表

・時代・遺跡種別コード（左表）の説明

時代・遺跡種別コードは、時代を縦軸、遺跡種別を横軸にしたマトリックスコード表を採用した。縦軸と横軸の交点のコード（数字4桁）とする。時代と遺跡種別を別々の項目として設定した場合、複合遺跡などの検索の際に不都合が生じる場合がある。例えば、縄文時代の墓と弥生時代の集落という複合遺跡の場合、下記のような索引の組合せがそれぞれ条件を満たしていることになり、検索者の判断が必要となる。そこで、多少煩雑ではあるが、時代と遺跡種別を関連させたマトリックスコード表を採用することにより、この混乱を回避することとした。

（例）時代項目と遺跡種別項目を別けて設定した場合

時代	遺跡種別
縄 文	墓
弥 生	集 落

[縄・墓] [縄・集落] [弥・墓] [弥・集落] と、全ての組み合わせが条件を満たすこととなる。

立地（2020）コード

項目名	コード
山 地	1
丘 陵	2
台 地	3
扇 状 地	4
低 地 平 地	5
水 底	6
島 嶼	7

現況（2030）コード

項目名	コード
市街地・集落	1
道 路	2
墓 地	3
耕 作 地	4
山 林 ・ 原 野	5
河 川	6
そ の 他	9

島嶼：1から6のいずれかにも該当しない島

保存状況（2040）コード

項目名	コード
保 存	1
不 良	2
消 滅	3
不 明	4
そ の 他	9

保存：遺跡全体が良く保存されている
不良：遺跡の一部が破壊されている
消滅：遺跡全体が消滅している

保存状況の判断は、記入者の主觀に頼らざるを得ない。

不動産文化財データベース データシート

不動産文化財ID番号	1000											市町村不動産文化財ID番号	1010															
名称	漢字	1030																										
	I	ひらかな	1035																									
	II	漢字	1030																									
	III	ひらかな	1035																									
所在地	市町村コード	1050																										
	I	都市市区町村大字	1055																									
	II	市町村コード	1050																									
	III	都市市区町村大字	1055																									
	境界不動産文化財ID番号	1060																										
	所有者種別(3以内に○)	1100	1.国	2.県	3.市町村	4.寺院	5.神社	6.法人	7.個人	9.その他																		
主たる時代	1200													指定区分										1300				
調査・発掘の有無	1400	0.なし	1.あり													文献の有無										1500	0.なし	1.あり
2万5千分の1地形図番号	1600																											
緯度	1601											経度	1602															
時代・遺跡種別	2010																											
立地	2020																											
現況	2030																											
保存状況	2040																											
面積	2050											全国遺跡地図	2060											群集遺跡ID番号	2070			
遺跡概要	主要な遺構	2100																										
	主要な遺物	2110																										
	主要な発掘	2120																										
	主要な開発	2030																										
	その他	2040																										

(注 このデータシートの中央下寄りの2重線より上半が、不動産文化財共通項目記入欄、下半が遺跡項目記入欄となる。遺跡以外の不動産文化財についての項目等は、稿を改める。)

III 不動産文化財文献情報データベース

III-1 データベースの構造

不動産文化財に関する文献には、報告書、単行本、雑誌論文などがある。それらを次の3種類に分類する。

A. 文献1点に不動産文化財1単位が報告されているもの。

単行本項目群として扱う。

B. 文献1点に複数の不動産文化財が報告されているもの。

単行本項目群と複数件の表題項目群として扱う。

C. 雑誌・紀要などに報告されているもの。

雑誌・紀要項目群として扱う。

A (文献1点に不動産文化財 1単位が報告されている)	B (文献1点に複数の不動産 文化財が報告されている)		C (雑誌・紀要などに 報告されている)
	単行本項目群 (文献仮ID番号、書名、副書名、巻次、シリーズ名、 シリーズ番号、編著者名、発行機関、発行年、不動産 文化財ID番号) B類の場合、不動産文化財ID番号は表題項目群に記載する		雑談・紀要項目群 (文献仮ID番号、 論文名、 執筆者名、 頁、 雑誌、紀要名、 巻号、 発行機関、 発行年、 不動産文化財 ID番号)
	表題項目群 (表題、頁、 執筆者名、 単行本連結 ID番号、 不動産文化財 ID番号)	表題項目群 ID番号、 不動産文化財 ID番号)	
地方自治体独自の項目群 (受入番号、受入年月日、排架番号、分類番号など)			

図書管理情報を強化するためには、自治体独自の項目群を充実させる必要がある。

III-2 A、Bに共通する単行本項目群とその定義

III-2-1 A、Bに共通する単行本項目群の内容

項目名	項目番号	文字数	バイト数	リピート	データ長	文字種
文献仮ID番号	9000	5	5		固定	半角
書名	9010	50	100		可変	全角
副書名	9020	50	100		可変	全角
巻次	9030	10	20		可変	全角
シリーズ名	9040	50	100		可変	全角
シリーズ番号	9050	10	20		可変	全角
編著者名	9060	50	100		可変	全角
発行機関	9070	25	50		可変	全角
発行年	9080	4	4		固定	半角
不動産文化財ID番号	9500	12	12		固定	半角

III-2-2 A、Bに共通する単行本項目群の説明

・文献仮ID番号（9000）

自治体の整理用のID番号であり、自治体単位で任意の5桁の数字を与える。入力語の修正、追加などはこの番号によって行う。

・書名（9010）

図書に表示されていて、それによって図書が同定識別される固有の名称。

・副書名（9020）

書名に対してそれを補記するような名称が付けられてあればその名称。

（例）書名 「仁和寺境内発掘調査報告」

副書名 －御室会館建設にともなう調査－

・巻次（9030）

書名に対して同定識別するため与えられている番号あるいは名称。

（例）第5巻 近世編

・シリーズ名（9040）

いくつかの著作からなる数冊の図書で、各図書にそれぞれの書名があるとき、そのグループ全体につけられた包括的な名称。

(例) 世界考古学大系

・シリーズ番号（9050）

シリーズ構成する個々の図書に与えられている番号。

(例) 第10巻

・編著者名（9060）

その図書の著作者、あるいはその著作に関与した副次的な著者（編者、訳者等）の個人名または団体名。著作の種類（「著」、「訳」、「編」、「文」、など）は採用しない。編著者が2名以上または2団体以上の場合は「、」（コンマ）で区切って列記する。

・発行機関（9070）

図書の出版、頒布、発行などについて、責任がある個人あるいは団体の名称。

発行機関が2機関以上の場合は「、」（コンマ）で区切って列記する。

・発行年（9080）

図書の属する版が最初に発行された年の西暦（1バイト文字4桁）。

・不動産文化財 I D 番号（9500）

当該文献に報告されている不動産文化財の I D 番号（不動産文化財データベースの共通項目群の項目番号1000の不動産文化財 I D 番号）。但し、B類に属する文献の場合は、表題項目群で記入するのでここでは記入しない。

III-3 Bの表題項目群とその定義

III-3-1 Bの表題項目群の内容

項目名	項目番号	文字数	バイト数	リピート	データ長	文字種
表題	9100	50	100		可変	全角
執筆者名	9110	20	40		可変	全角
頁	9120	9	9		可変	半角
単行本連結 I D 番号	9130	5	5		固定	半角
不動産文化財 I D 番号	9500	12	12		固定	半角

III-3-2 B (文献1点に複数の不動産文化財が記載されているもの) の表題項目群の説明

- ・表題 (9100)

本文内での表題

- ・執筆者名 (9110)

表題論文等にかかる執筆者、文責者の氏名。執筆者が2名以上の場合「、」(コンマ)で区切る。

- ・頁 (9120)

表題論文等の記載ページ。開始ページと終了ページの間に「—」(ダッシュ)を入れる。

(例) 35-64

- ・単行本連結 I D番号 (9140)

表題論文等が記載されている文献の仮のI D番号(不動産文化財文献情報データベースの単行本項目群の項目番号9000の文献仮I D番号)。

- ・不動産文化財 I D番号 (9500)

表題論文等に報告されている不動産文化財のI D番号(不動産文化財データベースの共通項目群の項目番号1000の不動産文化財I D番号)

III-4 Cの雑誌・紀要項目群とその定義

III-4-1 Cの雑誌・紀要項目群の内容

項目名	項目番号	文字数	バイト数	リピート	データ長	文字種
文献仮I D番号	9000	5	5		固定	半角
論文名	9210	50	100		可変	全角
執筆者名	9220	20	40		可変	全角
頁	9230	9	9		可変	半角
雑誌・紀要名	9240	30	60		可変	全角
巻号	9250	10	20		可変	全角
発行機関	9260	25	50		可変	全角
発行年	9270	4	4		固定	半角
不動産文化財I D番号	9500	12	12	5	固定	半角

III-4-2 Cの雑誌・紀要項目群の説明

- 文献仮ID番号（9000）

単行本の項参照。

- 論文名（9210）

この雑誌・紀要などに掲載された、ここで取り扱う論文名。

- 執筆者名（9220）

項目番号（9210）の論文に関わる執筆者の氏名である。執筆者が2名以上の場合、「、」（コンマ）で区切って列記する。また、複数の執筆者の氏名で20字を超過する場合には、20字以内におさまる氏名をあげるにとどめ、末尾に「他」を付して記載以外の執筆者の存在を明確にする。

- 頁（9230）

項目番号（9210）の論文の掲載されているページ。開始ページと終了ページの間に「—」（ダッシュ）を入れる。

- 雑誌・紀要名（9240）

項目番号（9210）の論文の掲載されている雑誌名または紀要名。『紀要』という書名であって、責任編集団体の名称をあげていない紀要の場合でも、特にその名称を補記しない。

- 巻号（9250）

雑誌または紀要の巻および号。「第」、「巻」、「号」を付ける。

（例）第28巻3号

- 発行機関（9260）

雑誌・紀要の出版、頒布、発行などについて、責任がある個人あるいは団体の名称。発行機関が2団体以上の場合、「、」（コンマ）で区切って列記する。

- 発行年（9080）

雑誌・紀要が発行された年の西暦4桁。

- 不動産文化財ID番号（9500）

当該文献に報告されている不動産文化財のID番号（不動産文化財データベースの共通項目群の項目番号1000の不動産文化財ID番号）。

また、当該文献に不動産文化財が複数記載されている場合は、5とおりまで記載できる。

以上、全国不動産文化財データベースの構造と、データベースに盛り込む項目について述べた。繰り返しになるが、この文献データベースは、あくまでもある不動産文化財に関する文献に限ってのものであり、図書管理上の項目とか、その文献の所在に関しては、いっさいあげていない。それについては、ユーザーが個々に、みじかに利用・閲覧できる文献の書誌的情報を盛り込むことで、いっそう充実した文献データベースに育て上げることが肝要である。

不動産文化財文献情報データベース データシート

単行本項目群・表題項目群データシート

雑誌・紀要項目群データシート

(注 単行本データシートの内、中央二重線より上が、文献1点に1件の不動産文化財が報告されている場合に使用する。下半が、複数件報告されている場合で、例では3件分となっているが、これが、報告件数分増減する。)

不動産文化財データベース データシート(記入例)

不動産文化財ID番号	1000	1:6:3:4:2:0:3:0:0:1	市町村不動産文化財ID番号	1010	0:3:0:0:1				
不動産文化財種別	1020	①遺跡	2.名勝	3.天然記念物	4.建造物	5.伝統的建造物群	9.その他		
名 称	I 漢字	1030	じょくうべのき 豊跡						
	I ひらかな	1035	じょくうべのき いせき						
	II 漢字	1030							
	II ひらかな	1035							
所 在 地	III 漢字	1030							
	III ひらかな	1035							
	I 市町村コード	1050	1:6:3:4:2						
	I 郡市区町村大字	1055	下新川原入善町入善						
II 市町村コード	1050								
II 郡市区町村大字	1055								
III 市町村コード	1050								
III 郡市区町村大字	1055								
境界不動産文化財ID番号	1060								
所有者種別(3以内に○)	1100	①国	2.県	③市町村	4.寺院	5.神社	6.法人	⑦個人	9.その他
主たる時代	1200	5:2:6:0	:	:	:	:		指定区分	1300 1:2 :
調査・発掘の有無	1400	0.なし	①あり					文献の有無	1500 0.なし ①あり
2万5千分の1地形図番号	1600	N:5:3:5:1:1:1							
緯度	1601	3:6:5:7:1:0	経度	1602	1:3:7:2:9:5:5				
時代・遺跡種別	2010	5:2:0:5	6:2:0:5						
立地(3以内に○)	2020	1.山地	2.丘陵	3.台地	4.扇状地	⑤低地平地	6.水底	7.島嶼	
現況(3以内に○)	2030	1.市街地・集落	2.道路	3.墓地	④耕作地	5.山林・原野	6.河川	9.その他	
保存状況	2040	①保存	2.不良	3.消滅	4.不明	9.その他			
面積	2050			全国遺跡地図	2060	0:3:0:0:0:1	群集遺跡ID番号	2070	
遺 跡	主要な遺構	2100	平安前中期左圓跡 平安末～鎌倉初期連築土塁、主屋正門 西に東西に脇屋 前後5期以上に亘る						
	主要な遺物	2110	墨書き器「西左」、「コ奇」、不簡折片、風字鏡、絲軸 陶器、瓦和陶器						
	主要な発掘	2120	昭和16年7月29日、昭和45年7月29日						
	主要な開発	2130							
概 要	その他の	2140	遺跡・発掘調査により江戸時代良江平区域から除外						

不動産文化財文献情報データベース データシート(記入例)

単行本項目群・表題項目群データシート

文献仮ID番号	9000 /2345							
書名	9010 富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ							
副書名	9020 井波町高瀬遺跡・入善町じょううべのま遺跡基礎調査報告書							
巻次	9030							
シリーズ名	9040							
シリーズ番号	9050							
編著者名	9060 富山県教育委員会							
発行機関	9070 富山県教育委員会							
発行年	9080 1974 不動産文化財ID番号 9500							
表題	9100 高瀬遺跡							
執筆者名	9110 稲本正, 井崎久雄, 阿部義平, 游野久							
頁	9120 1-35	単行本連絡ID番号	9130 /2345	不動産文化財ID番号	9500 /1634210160			
表題	9100 じょううべのま遺跡							
執筆者名	9110 稲本正, 井崎久雄, 高島亮平, 山中敏史, 他							
頁	9120 37-126	単行本連絡ID番号	9130	不動産文化財ID番号	9500			
表題	9100							
執筆者名	9110							
頁	9120	単行本連絡ID番号	9130	不動産文化財ID番号	9500			

雑誌・紀要項目群データシート

文献仮ID番号	9000 54321							
論文名	9210 多賀城系瓦の系統							
執筆者名	9220 進藤秋輝							
頁	9230 11-27							
雑誌・紀要名	9240 研究紀要							
巻号	9250 5							
発行機関	9260 富城県多賀城跡調査研究所							
発行年	9270 1978							
不動産文化財ID番号	9500 04209000010420900002042090000304209000040420900005							